

資訊陳述的發話構造與其表達特徵之分析

—日語與台灣華語之對照比較—

黃英哲

國立臺中科技大學應用日語系 副教授

摘要

本篇論文乃針對資訊陳述的行為與其發話的構造，進行日語與台灣華語的對照研究。分析的資料乃採電視與收音機廣播中訪談節目裡一對一的對話錄音。所謂資訊陳述是指說話者將自身知曉的事情與其經歷過的事情傳達給受話的一方。分析的結果可列出如下 4 點。(1) 資訊陳述可由起頭、內容傳達、結尾 3 個部分組成。日語對話中以此 3 個部分皆到齊的組合之比率較高；而台灣華語對話則以“缺結尾部分”的組合比率較高。(2) 二種語言皆可於資訊陳述時的“起頭部分”與“內容傳達”之開始處發現 13 種表達的技巧。(3) 若將資訊陳述裡最起頭的表達視為前置表達，則日語裡可發現有較多如「はい型、いや型、そうですね、まあ型、あの一」等詞語；而台灣華語中則可發現有較多如「重複對方重點語句」之使用與“對～、嗯～、所以～”型等詞語之出現。針對“內容傳達”中之第一句發話的表達特色解析後發現在日語裡有較多「です/ます」及其變化形，「～けど型、～ね、～ので型」等的表達；而在台灣華語裡較常出現的表達按其多寡排序有“是～、就～”型等。關於資訊陳述時的結尾標幟，在日語裡以「ね、けど型、はい型」等詞語的使用較為顯目；而台灣華語中則可觀察許多“的、了、對不對(是不是)、啊”等詞句。(4) 解析說話者如何讓自己的資訊傳達得以持續後，發現二種語言皆可依是否與對話方有關來觀察，並各皆有其持續發話的技巧。

關鍵詞：陳述資訊，台灣華語，對照分析，起頭，結尾

受理日期：2014.08.31

通過日期：2014.10.24

**The structure and the expression features of
information-statement:A contrastive analysis of Japanese
and Taiwanese Mandarin in the conversations**

Huang Ying-che

Associate Professor,

National Taichung University of Science and Technology

Abstract

The purpose of this paper is to clarify the structure and the expression features of information-statement both in Japanese and Taiwanese Mandarin. The data for the analysis is naturally-occurring interview-style conversations on TV and radio programs. When we telling the facts or experiences to someone, we should use the utterances called information-statement. 4 outcomes could be summarized as follows:(1) “Starting-up”, “content”, “ending” are the main elements in an information-statement. In Japanese dialogue, the ratio of combination contained all 3 elements is relatively higher while the rate of combination without the ending element is higher in Taiwanese Mandarin dialogue. (2)13 kinds of expression skills can be found at the beginning stage of information-statement in both languages.(3)The markers occurring at the beginning of the starting-up such as “hai”, “iya”, “soudesune”, “maa”, “anoo” etc. were been examined in Japanese, and such as “reuse the key word or sentence used by speaker”, “due”, “un”, “suo-yi” etc. were been examined in Taiwanese Mandarin. The expression features of the first utterance in the “content” such as “desu/masu”, “kedo”, “ne”, “node” etc. in Japanese, and such as “shi”, “jiu” etc. in Taiwanese Mandarin were been examined. The ending features are the usage of “ne”, “kedo”, “hai” etc. in Japanese, and the usage of “de”, “le”, “due-bu-due”, “a” etc. in Taiwanese Mandarin. (4) In order to keep the information-statement ongoing, some skills have been utilized either from the speaker or from the hearer.

Key words: information-statement, Taiwanese Mandarin, contrastive analysis, starting-up, ending

情報陳述の発話構造と表現特徴の分析 —日本語と台湾華語との対照と比較—

黄 英哲

台中科技大学応用日本語学科 准教授

要旨

本稿では情報陳述とその発話の構造をめぐって日本語と台湾華語の対照研究を行った。分析データはテレビとラジオのインタビュー番組における生中継の対一の会話である。情報陳述とは話者自身が知っている事柄や経験してきたことを他人に伝えることを指す。分析の結果として以下の4点が挙げられる。(1) 情報陳述は立ち上がり、伝達内容、締め括りの三つの要素で構成され、日本語の会話ではこの3要素がすべて揃ったものが多いが、台湾華語では締め括りが欠けたものが比較的多く見られた。(2) 情報陳述の立ち上がりと伝達内容の開始部に見られるストラテジーについては、両言語とも13種類のものが見られた。(3) 立ち上がりの最初の表現を前置きと看做し、日本語では、はい系、いや系、そうですね、まあ系、あの一等の表現が多いのに対して、台湾華語では、「相手用語の重複」、「對～、嗯～、所以～」系といった表現が多い。伝達内容の部分の最初の節や句を観察すると、日本語では、「です/ます」とその変化形、～けど系、～ね、～ので系等といった順で多いのに対して、台湾華語では、「是～」系、「就～」系等の順で多い。情報陳述の締め括りの会話標識については日本語では、ね、けど系、はい系の使用が目立つのに対して、台湾華語では、「的、了、對不對(是不是)、啊」等が多く観察された。(4) 話者が情報陳述を持続できる条件を観察すると、聞き手が関与する場合と聞き手が関与せず話し手自身が何らかのストラテジーを用いている場合があった。

キーワード：情報陳述、台湾華語、対照分析、立ち上がり、締め括り

情報陳述の発話構造と表現特徴の分析 —日本語と台湾華語との対照と比較—

黄 英哲

台中科技大学応用日本語学科 准教授

1. はじめに

私たちは日々の言語行動の中で時々自分が知っている事柄や経験してきたことを話し相手に伝えなければならない。本研究ではそれを「情報陳述」と名付ける。そうした言語行動においては一つの短い節または句で済むものもあれば、複数の節や句で行わなければならないものもある。本研究では「異なる話し手の共通的な構造パターンや表現傾向はないのか」、「話し手と聞き手はこれらの発話を構築するにはどのように働きかけ合っているのか」という問題意識を持っている。また、日本語による会話の表現パターンはほかの言語にはないかも興味深い。そこで、本稿では情報陳述の行為とその発話の構造パターンをめぐって日本語と台湾華語の対照研究を行う。

台湾における使用言語としては、マンダリン、台湾語、客家語、各原住民の言語が挙げられる。台湾で標準語として定められているのはマンダリンであるが、日常的に台湾語も使用され、多くの台湾人がマンダリンと台湾語を自由に操れる。本稿でいう「台湾華語」とは、長年台湾語の影響を受けたマンダリンを指す。例えば、あいづちやフィードバックの表現に用いるマンダリンの“是嗎”の代わりに、台湾華語では“是喔”という表現が見られる。さらにマンダリンにあまり見られない“～齣”、“阿～”、“～啦”、“～的說”¹が台湾では多用されている。

以下、第2節で関連した先行研究を概観し、本稿の位置づけを確認する。第3節では分析に用いる会話データを示す。第4節で典型

¹ それぞれ「～よね」、「だから～」、「～よ」、「～のですが」のような意味を表す。

的な情報陳述は「立ち上がり」、「伝達内容」、「締め括り」の三つの要素で構成されることについて述べ、そして具体例を挙げながら、情報陳述の発話の構成の組み合わせを説明する。第5節では「立ち上がり」と「伝達内容」の開始部のストラテジーについて考察する。第6節で表現形式の分類を行った後、情報陳述という言語行動の中の「立ち上がり」、「伝達内容」、「締め括り」の表現形式について日本語と台湾華語の対照分析を行う。第7節では両言語における会話展開の全体的な視点から伝達内容の持続現象を考察する。

2. 先行研究

本稿と関連する先行研究として、情報陳述に関する研究と、日本語と台湾華語との対照研究について述べる。

会話の「物語」の研究は「情報陳述」に関する研究の一環であろう。Labov (1972) と Maynard (1989) による会話の物語の構成要素は情報陳述の構造を分析する上で重要な示唆となるものである。

物語の構成要素は、Labov (1972) は要約、方向付け、詳説、評価、結果の五つがあると指摘し、Maynard (1989) は、前置き表現、イベント、移行要求、評価/報告価値、解決、終結表現といった要素があるとした。

日本語会話による物語の研究の代表的なものとしては李 (2000) が挙げられる。李 (2000) は日本語会話に見られる物語について「物語を開始するための言語行動」、「物語を終了するための言語行動」、「物語を再開するための言語行動」、「物語を持続するための言語行動」の四つに分類し分析を行った。具体的な分析の結果を表1～表4に示す。いずれも李 (2000) を基に筆者が整理したものである。

表1 物語を開始するための言語行動

発話権を取得する場合	発話順番を受け取ることによって	①それはー②あれねー
	発話順番を持っている途中で	①うん、そう、ただね②そうだよねー、かもね③へー、そっかー、あそう言えばなんか④そうかー、なんか全然さー…⑤ただ、この前、なんか、…⑥なんかねー…⑦～さ、～
	発話順番を取るによって	①そうそうそうそう、(沈もく)～はさ。②えーと、あれは③やっぱ、でもさ なんか…④でー、なんか…

	発話順番を競うことによって	①話したっけ、話したっけー、あの一②いや、でもね、でもね。③〇〇さんねー〇〇さん、この前、これ④ちょっと、ちょっとごめんね
物語を開始するために語り手が行う言語行動	話を変える表示をする	・話、変わるけどね ・全然関係ないけどさー ・そう言えば、 ・～と言えば
	話をするための許可を求める	・～の話をしてもいい↑・ちょっと、いい↑
	話をしようとする意欲をアピールする	・ちょっと、ごめんね ・ちょっと、聞いて ・ちょっと、言いたいことがあるんだけど
	他の会話参加者の興味を引く	① 出来事の結末を先に言い出す ・でもね、すごい ほめられたよ ・残ってたよ ベスト8に ② 出来事発生当時の気持ちを表す ・ん、でもねーすごい恥ずかしかったよー ・もう、あの時、人生の終わりかと思ってた ・この前、作った時、大変だった ③ 出来事から得た結論を提示する ・でもね、あれね、行かないほうがよかった ④ 物語の価値を主張する ・その話、すごいんだよ ・面白い話があるんですよ

李（2000）を基に作成

表 2 物語を終了するための言語行動

出来事の結末を示す	・そう、褒められたよ、わたし ・あ、置いてますよ、とかって、言われたからー、昨日、借りに行ったのねー。だから、町田の図書館、行ったんだけどー ・すごい噂になってしまったらしい ・じゃー、ちょっと、考えさせてくれー ・今そういう状態らしいという感じになってー
出来事発生当時の気持ちを示す	恐かったよ/そしたら、なんか、二等とか、当たってーそう、すごいびっくりしちゃった/もういいよ、なに文句言われてもとか思ってたけどーまいちゃったよ。あの時に本当に
出来事・物語の終了を示す	そいで、終わり/うん、そうそう/そう、褒められたよ、わたし/うん、すごい噂になってしまったらしい/うん、今そういう状態らしい、うん/そう、すごいびっくりしちゃった/うん、そいで、終わり
出来事の題目を示す	・1回だけ、でも、それまで徹夜したことがあってー話したことなかったっけ。展覧会の時の話、中等部の ・それが初めて徹夜した時なの
出来事から得た結論を述べる	・結局なんか言わなきゃいけないんだよねー ・だから、本当そっくりだって ・だからん^^（二秒間の沈黙）君は行くみたい

李（2000）を基に作成

表 3 物語を再開するための言語行動

話し相手の割り込み行動における発話内容を肯定する	・うんうん、そうそう、あの一事務の人が使うコピー機とか、先生たち、専用の、あれで、使える。 ・そうそうそう、全然、全然、割り合わない、そうそう、時給の方がよっぽど3倍ぐらい。 ・そうそうそうそう
挿入連鎖の終結を表示する	・うん
話者自身と話し相手の役割分担を明示する	・続きを聞いてよ
	・「で」「それで」「そしたら」「だから」等の接続詞

内容の接続を表示する	の使用・続きを聞いてよ・さっきの話だけどさー ・さっき言いかけたんだけど
物語の続きを思い出そうと していることを表示する	・なに↑ ・何だっけ

李（2000）を基に作成

表 4 物語を持続するための言語行動

接続表示	・で、それで、そしたら、だから、でも、だけど等 ・その他の接続節
注目要求	ほら/～ね/あのね/～さ/あのさ/ほら～じゃん/ほら～でしょう
時間稼ぎ	「あの一」「んー/んーと/んーとね」「えー/えーと/えーとね」「なに/なんだ/なんだろう」「なんていうの/なんというの/なんていうか/なんというか」「なんていうのかなー/なんというのかなー」「なんだ（った）っけ/なんていうんだ（った）っけ」

李（2000）を基に作成

李（2000）は日本語母語話者たちが雑談の物語において意識的あるいは無意識的に用いた表現特徴を抽出している。本研究においても同様の考えに基づいて、数量的分析も取り入れ、日本語と台湾華語の両言語に見られる情報陳述の構造と表現形式の使用傾向を分析する。

李（2000）以後、日本語会話に見られる情報陳述の分析については接触場面に関する論考でしばしば言及されている。例えば、深川（2007）は上級日本語学習者の談話の特徴を分析の焦点としつつ、日本語母語話者同士のインタビュー会話に見られる接続表現についても考察した。後者の結果については次の5点にまとめられる。(1) 「逆説」の「～けど」のほかに、「補足」の「～けど」も多く用いられている。(2) 意見や感情を述べる際や聞き手の意見を否定する際に話し手のためらいを示す等の心的態度を表出する（石川 2005）例が多い。(3) 「～とき」、「～たら」の表現は日本語学習者ほど多用されていない。(4) 「～から」より「～ので」のほうが多く用いられる。また、「節＋という」の表現も多く使用される。(5) 接続詞類の使用について「でも」、「だから」、「あと（は）」の使用に集中されず、「で」、「それで」を始めとする接続詞類が15種類ほど用いられている。これらの結果からは日本語の発話を持続させるための表現特徴が窺えた。しかしながら、表現特徴はこれだけではない可能性もある。本稿で

は、更にストラテジーの観点からも考察する。また、話し相手が絡む場合、話者は相手からどのような働きかけを受けているのだろうか。台湾華語で同じ現象が見られる場合、どのような表現特徴が観察されるだろうか。本稿ではこれらの課題についても考察を行う。

佐々木（2010）は体験談の終結部について、連鎖型（評価先導または相づち先導）、非連鎖型（評価または相づち）、ゼロ型の三つに分けて分析している。その結果、日本語母語話者同士の話し手と聞き手が評価を積極的に言語化するため終結部の発話連鎖が長くなり、互いの共感が生まれ会話が盛り上がりとともに体験談の終結の予測が容易になることを明らかにした。佐々木（2010）が体験談の終結部に焦点を当て、その組織化のパターンを分析したのに対して、本稿では、情報陳述（体験談もこれに含まれる）の全体的な構造のパターンの分析を行う。

台湾華語に見られる情報陳述の研究²についてはストーリーテリングの技術の論考が挙げられる。例えば、常雅珍（2005）は台湾華語のストーリーテリングの技法について触れているが、本稿ではストーリーテリングの技法の研究に焦点を当てずに、情報陳述という大きな枠組みの構成要素とそれぞれの表現特徴の面から分析する。

日本語と台湾華語の両言語による会話の対照研究については、黄（2010;2012）の論考が挙げられる。

黄（2010）は（1）情報要求の表現、（2）問いかけの前置表現、（3）返答発話における準備表現、（4）フォローの表現特徴、（5）割り込み発話をめぐって対照分析を行った。それぞれの表現特徴とストラテジーの異同について個々の側面から検討されているが、インタビュー会話に見られる事実伝達、感想提出等を含む情報陳述という言語行動の考察は行われていなかった。本稿では、後者に焦点を当て、構造パターン、表現特徴、そしてストラテジーを検討していく。

² 台湾華語で情報を陳述する時に“那”“然後”（林曉茹 2000）“这样子”（劉芳君 2003）などといった会話標識が時々現れる。それに関する用法と機能の分析も台湾では注目されるようになってきたが、本稿ではそれらの会話標識の用法については分析の対象外とする。

黄（2012）は自然会話データを実証的に分析し、両言語とも単刀直入型と緩和先行型の否定的応答があることを指摘した。前者においては直接否定表示が使用される場合と、否定表示の前後に簡潔な緩和表現が付く場合が観察され、後者においては、暫時的同調、追加補足、理由・現状陳述、保留的な反応といった特徴が観察された。黄（2012）は会話展開の全体像の視点から構造パターンを俯瞰することができたが、数量的分析により、表現形式の出現傾向を考察することができなかった。本稿では数量的分析を取り入れ、情報陳述に見られる表現特徴の出現率について検討していく。

3. 分析データ

本稿で扱った分析データは、日本または台湾で放映・放送されたテレビ番組・ラジオ番組における日本語または台湾華語によるインタビュー会話である。いずれの番組も事前収録ではなく生放送のものである。日本語インタビューはインタビュアー7名、応答者13名による計15組の会話で、約177分間にわたる。一方、台湾華語のインタビュー会話は台湾のラジオ番組及びテレビ番組から収集した、インタビュアー8名、応答者15名による、計15組の会話で、約750分間の録音データである。

表5 会話データ

会話名/インタビュアー・性別/応答者・性別/出所・録音日付	
日本語データ	台湾華語データ
J1/KUM・M/OGA・M/テレビ朝日・ニュースステーション・2002/12	T1/CHA・F/LIN・M/全国廣播・名人Talk・2007/3
J2/KUM・M/ISH・M/テレビ朝日・ニュースステーション・2002/12	T2/CHA・F/LYO・F/全国廣播・名人Talk・2005/11
J3/KUM・M/TAK・M/テレビ朝日・ニュースステーション・2004/1	T3/CHE・F/TSU・M/飛碟電台・飛碟晚餐・2006/3
J4/KUM・M/OHS・M/テレビ朝日・ニュースステーション・2003/10	T4/KAN・M/SHI・M/飛碟電台・飛碟晚餐・2005/12
J5/SAM・M/DAI・M/フジテレビ・すぼると・2003/1	T5/CHA・F/HON・M/全国廣播・名人Talk・2006/3
J6/SAM・M/GOJ・M/フジテレビ・すぼると・2003/5	T6/CHA・F/SOU・F/全国廣播・名人Talk・2006/3
J7/SAM・M/KIY・M/フジテレビ・すぼると・2002/11	T7/CHA・F/YAN・M/全国廣播・名人Talk・2005/12
J8/NOB・M/ICH・M/フジテレビ・すぼると・2003/1	T8/HAN・F/UAN・F/飛碟電台・藝術好好玩・2007/3

J9/NOB・M/HOS・M/フジテレビ・すぼると・2003/3	T9/CHA・F/PIN・F/全国广播・名人 Talk・2006/1
J10/YAK・M/KOM・M/フジテレビ・すぼると・2001/11	T10/HAN・F/CHU・M/飛碟電台・藝術好好玩・2007/6
J11/YAK・M/DOR・M/フジテレビ・すぼると・2002/12	T11/LEE・M/THZ・M/TVBS・101 高峰会・2008/1
J12/YAK・M/HOS・M/フジテレビ・すぼると・2002/12	T12/LEE・M/YEN・F/TVBS・101 高峰会・2007/11
J13/WAT・F/SUE・M/テレビ朝日・ニュースステーション・2003/9	T13/YEE・F/SHU・F/台視・企業名人堂・2007/12
J14/UDO・F/HOS・M/NHK 総合テレビ・ニュース 10・2002/7	T14/FAN・F/RUI・M/TVBS・TVBS NEWS・2007/12
J15/TEK・F/YAN・M/abc ラジオ・2008/2	T15/YEE・F/ZON・M/台視・企業名人堂・2007/11

会話はすべて録音し、「ターン」「あいづち」を以下のように認定して文字化した。ターンは、李（1995）に倣って「一人の会話参加者が話し始めてから話し続けることをやめるまで」とし、発話の「割り込み」、「重なり」、「話し手が提示した話題の内容が完了しているか否か」等を考慮して判断し、ターンごとに行を換えた。あいづちは、話し相手がターンを取らずに話を聴取したり理解したりしたことを伝える表現とし、「話し手の情報提供が完結しているか否か」、「話題が終了したか否か」、「ターンの交替の有無」等を考慮して判断した。文字化作業に使用した記号とその意味を表 6 に示す。

表6 文字化記号の意味

() あいづち	= 発話の重なり	— 日本語の長音	+ 割り込み
… 台湾華語の長音	【 】 筆者からの説明	{ } 非言語行動	
↓ 下降音調	↑ 上昇音調	! 感嘆	? 疑問
、 日本語における自然なポーズ	、 台湾華語における自然なポーズ	~ 省略	

4. 情報陳述の構造

今回収集したデータの分析から、情報陳述は立ち上がり、伝達内容、締め括りの三つの要素からなることが観察できた

「立ち上がり」とは情報陳述を始めるときの開始部分を指し、「伝達内容」とは情報陳述の言語行動における主要な発話またはその集合を指し、「締め括り」とは情報陳述を終わらせる時の発話または語を指す。

情報陳述の構造には図 1 の 4 種類の組み合わせがあると考えられる。

- タイプ 1 : 立ち上がり + 伝達内容 + 締め括り
- タイプ 2 : 立ち上がり + 伝達内容
- タイプ 3 : 伝達内容
- タイプ 4 : 伝達内容 + 締め括り

図 1 情報陳述の構造の組み合わせ

タイプ 1 は立ち上がり、伝達内容、締め括りの三つの要素が揃う典型的な情報陳述の構造である。日本語と台湾華語それぞれによるタイプ 1 の例を以下に示す。

例 1 タイプ 1 : 立ち上がり + 伝達内容 + 締め括り

KUM: あの一、阪神タイガースの先発、まあ、一戦目は、ぼくは、間違いなく井川だと思っよ

例 1 の KUM は情報陳述を行うにあたって、まず「あの一」を用いて情報陳述を始めている。そうした表現が情報陳述の「立ち上がり」に当たる。例 1 の下線部分は情報陳述の中核をなす「伝達内容」の部分である。最後の「よ」は情報陳述の発話を終わらせる効果を持つ「締め括り」である。

例 2 タイプ 1 : 立ち上がり + 伝達内容 + 締め括り

LIN: 所以，我們說政府的債務，一個是存，進了錢，來彌補這個平衡的，還有一種就是先墊了錢，還沒有彌補的，第三種就是，公共設施用地還沒有付錢的，這個合合起來，有 11 兆，就是 11 萬億，這樣的話，平均呢，每一位國人大概平均負債 50 萬，50 萬吧【訳：だから、いわゆる政府の赤字は【～中略～】我々国民一人当たりは平均して 50 万元の負債を負担しているのではないのでしょうか。】

例 2 の「台湾華語」の例では“所以”が「立ち上がり」、下線部が「伝達内容」、「吧」が「締め括り」に該当する。

情報陳述においては、「立ち上がり」や「締め括り」が必ずしも入るとは限らない。例 3 にタイプ 2 の「立ち上がり + 伝達内容」の例を示す。

例3 タイプ2: **立ち上がり** + **伝達内容**

HAN: 為什麼? 【訳: それはどうしてですか。】

UAN: **嗯…**因為我覺得這個是很私人的事情啊!而且有很多人跑來跑來問我為什麼不發表戀愛的一些內容一些題材(嗯)嗯…我會覺得,畢竟我也不是什麼兩性專家啊!(嗯)你叫我畫那些,我覺得這個太,太隱密了(嗯)我覺得還是講一些比較輕鬆一點的東西會比較好一點【訳: そうですね、それはプライバシーにかかわっていることだと思いますので、【～中略～】やっぱり何かリラックスになれそうな題材にしたほうが良いと思って。】

HAN: Umm, 所以照你意思你覺得戀愛不輕鬆喔,【兩者笑う】【訳: そうですか、ということは、恋愛というのは楽しいことじゃないというわけですね】

例3に見られる「嗯…」は「立ち上がり」、下線部分は「伝達内容」であるが、「締め括り」に当たる表現は見られない。

次の例4は「伝達内容」のみ(タイプ3)、例5は「伝達内容」と「締め括り」の二要素が入る(タイプ4)である。

例4 タイプ3: **伝達内容**

1HAN: ~【前略】~, 我們常常講很多人都把語言當成工具作+【訳: いつも言われている通りに、多くの人はことばを道具として+】

⇒2CHU: +你下棋(對)他就會下棋(對)你偶爾語言文字, 或是你親近語言文字(對)他就跟你一起親近, 這個就是+【訳: 将棋をやると付き合ってくれるし、語学の楽しさを教えてあげると一緒に勉強してくれる。これは+】

3HAN: +不過其實就是說在某一些因為~【後略】~【訳: まあ、それは~】

例4の2CHUは情報陳述の発話であるが、1HANに割り込む形で開始し、3HANに割り込まれて終結しているため、立ち上がりと締め括りがなく「伝達内容」しか出現していない。

例5の1SOUと3SOUは3要素が揃ったタイプ1であるが、2CHAは

伝達内容（2CHA の下線部分）と締め括り（“的”）の 2 要素のみのタイプ 4 で、立ち上がりが無い。

例 5 タイプ 4：伝達内容 + 締め括り

1SOU：欸有人講高枕無憂，那其實是不一定，每一個人的適應是不一樣的。的。【え、高い枕あれば憂いなしと言われるが、そうでもない部分があります。人それぞれですから。】

⇒2CHA：我就喜歡矮的。【私は低いのが好きです。】

3SOU：喔，我就喜歡中的。【そうですか、私は普通に高いのが好きです。】

表 7 情報陳述の構造の組み合わせの出現率の比較

	日本語データ					台湾華語データ				
	TYPE1	TYPE2	TYPE3	TYPE4	TTL	TYPE1	TYPE2	TYPE3	TYPE4	TTL
1	27 (51%)	17 (32%)	4 (8%)	5 (9%)	53 (100%)	37 (30%)	55 (45%)	15 (12%)	16 (13%)	123 (100%)
2	16 (49%)	11 (33%)	4 (12%)	2 (6%)	33 (100%)	25 (21%)	61 (50%)	32 (26%)	4 (3%)	122 (100%)
3	28 (52%)	8 (15%)	5 (9%)	13 (24%)	54 (100%)	20 (19%)	60 (56%)	20 (19%)	6 (6%)	106 (100%)
4	42 (78%)	7 (13%)	1 (2%)	4 (7%)	54 (100%)	28 (18%)	59 (38%)	47 (31%)	20 (13%)	154 (100%)
5	78 (56%)	20 (14%)	5 (4%)	37 (26%)	140 (100%)	43 (28%)	83 (54%)	22 (14%)	6 (4%)	154 (100%)
6	50 (67%)	9 (12%)	4 (5%)	12 (16%)	75 (100%)	27 (33%)	37 (45%)	12 (14%)	7 (8%)	83 (100%)
7	83 (63%)	19 (15%)	6 (5%)	22 (17%)	130 (100%)	23 (23%)	59 (60%)	12 (12%)	5 (5%)	99 (100%)
8	19 (43%)	8 (18%)	6 (14%)	11 (25%)	44 (100%)	70 (38%)	53 (29%)	27 (15%)	33 (18%)	183 (100%)
9	13 (52%)	6 (24%)	2 (8%)	4 (16%)	25 (100%)	27 (20%)	72 (54%)	26 (19%)	10 (7%)	135 (100%)
10	21 (54%)	9 (23%)	4 (10%)	5 (13%)	39 (100%)	13 (14%)	59 (66%)	15 (16%)	4 (4%)	91 (100%)
11	24 (70%)	2 (6%)	2 (6%)	6 (18%)	34 (100%)	14 (18%)	31 (40%)	26 (34%)	6 (8%)	77 (100%)
12	16 (43%)	12 (32%)	4 (11%)	5 (14%)	37 (100%)	30 (23%)	49 (37%)	43 (32%)	11 (8%)	133 (100%)
13	40 (64%)	9 (15%)	1 (2%)	12 (19%)	62 (100%)	28 (36%)	40 (52%)	9 (12%)	0 (0%)	77 (100%)
14	9 (47%)	3 (16%)	1 (5%)	6 (32%)	19 (100%)	7 (11%)	42 (68%)	12 (19%)	1 (2%)	62 (100%)
15	12 (52%)	2 (9%)	3 (13%)	6 (26%)	23 (100%)	17 (20%)	56 (64%)	12 (14%)	2 (2%)	87 (100%)
TTL	478 (59%)	142 (17%)	52 (6%)	150 (18%)	822 (100%)	409 (24%)	816 (48%)	330 (20%)	131 (8%)	1686 (100%)

表 7 から分かる通り³、日本語会話ではタイプ 1（立ち上がり + 伝達内容 + 締め括り）の出現率が比較的多いものに対して、台湾華語で

³日本語会話における全ての組ではタイプ 1 の出現率もっとも高いのに対して、台湾華語において会話 8 を除いて、ほかの全ての組ではタイプ 2 の出現率もっとも高い。なお、総数から考察したところ、日本語会話においてはタイプ 1 の出現率 (59%) がやはりもっとも高く、一方の台湾華語においてはタイプ 2 の出現率 (48%) がやはりもっとも高いことが分かった。

は、タイプ2（立ち上がり＋伝達内容）の出現率が比較的多い。すなわち、日本語では締め括りの表現が台湾華語に比べて出現しやすいということである。締め括りの表現が出現しない要因には発話の割り込みが考えられるが、日本語と台湾華語のこうした違いには割り込みの頻度の違いが影響している可能性がある。こうした根拠に、基づき、台湾華語よりも日本語は締め括りの表現が出現しやすい言語なのではないかと推測する。

5. 「立ち上がり」と「伝達内容」の開始部のストラテジー

「立ち上がり」と「伝達内容」の開始部に見られるストラテジーについて分析すると、両言語とも謙遜表示、自問自答、名詞定義、例示予告、要約予告、話題管理、同調要求、時間提示、場所提示、伝聞提示、挨拶、呼びかけ、言い淀みの13種類にまとめることができた。以下は特に謙遜表示、自問自答、名詞定義、例示予告、要約予告、話題管理、同調要求のストラテジーについて具体例とともに説明⁴する。

例6のLINは「自分を偉いと言うつもりはないんですが」と謙遜の形で情報陳述を始めさせている。このような発話を「謙遜表示」のストラテジーとする。

例6 【謙遜表示】

CHA：嗯，十萬塊來創造一個學校，而且可以把學校經營的這麼好，這不是一般人有這能耐耶【訳：うん、十万元で学校を設立し、そしてあんなによく経営できるというのは普通の人じゃできなんもんね】

LIN：我不敢說我多麼偉大，但，因為我自己有十萬塊錢，但是，還是朋友大家來贊助的(嗯嗯嗯)信任我，因而創辦了立人高中，
【訳：自分を偉いと言うつもりはないんですが、当時自分には十万元の資金しか持っていなかったんだ。友達からの支援

⁴各ストラテジーの例については紙幅の関係上両言語のどちらかを取り上げることにした。

と信頼がなければ、今の立人高校がないと思う。】

例 7 における LIN の立ち上がり部分を訳すと、「また、どうだ、日本というとき、日本は台湾に対してなぜそんなに興味を持っているかという、それは～」となり、立ち上がり部分で自ら疑問を提示して、伝達部分でそれに答える形式になっている。これを一種のストラテジーと考え、「自問自答」と呼ぶこととする。

例 7 【自問自答】

LIN: 另外，對，另外我說日本，日本為什麼這麼對台灣感興趣咧？
因為日本對台灣一年賺 300 億美金，（喔）他對我們出超，我們對他是逆超，台灣的家電，台灣的汽車，台灣的機械，大部分都從日本來【訳：また、どうだ、日本というとき、日本は台湾に対してなぜそんなに興味を持っているかという、それは～【後略】～】

例 8 における TAK の情報陳述のポイントは日本語の芸能界やスポーツ界で不惑の年（40 歳）になっても活躍している人を紹介することである。つまり、網掛け部分の「今回はね、芸能界やスポーツ界を（はい）ちょっとご紹介しようと思うん（はい）ですけれども」は話者が最も伝えたい情報の内容だと思われる。そうした発話が現れる前に、話者はまず「不惑」という用語を説明している。このような話者の言語行動を「名詞定義」と捉え、情報陳述の立ち上がりや伝達内容の提示のストラテジーだと考える。

例 8 【名詞定義】

TAK: 今年四十歳、不惑を迎える矢野さんと同級生、1968 年度生まれて、現在もバリバリに頑張っている方を、ご紹介していくコーナーです、（はい）ちなみに、不惑というのは（うん）孔子の論語の一節に「四十にして惑わず」とあります、（うん）40 歳で、狭い枠にとらわれないようになるなど、という意味だそうです、（おー）はい、プロ野球の（はい）選手は先週ね、（はい）山崎武司選手を（そうですね）初め、たくさん（はい）同じ年の（うん）同級生のプレーヤーを（はい、はい）

ご紹介しましたけれども、(はい) **今回はね、芸能界やスポーツ界を** (はい) ちょっにご紹介しようと思うん (はい) **ですけれども**、歌手ですと、【…後略…】

次の例 9～12 はそれぞれ例示予告、要約予告、話題管理、同調要求の実例である。

例 9 における YAN は発話の冒頭で自分が例を示すという予告をしてから、伝達内容を続けている。このような表現を例示予告とする。

例 9 【例示予告】

CHA: 對, sauce 很重要

YAN: **那我再舉例說明哦, 譬如說好了, 嗯, 這個我們呢在菜裡面呢, 不管是薑味紅糖汁啊 或者是**【後略】【訳: それじゃもう一つの例を挙げながら説明しよう。例えばさ、～】

例 10 における SHU は YEE の質問を受けて、詳しい説明に入る前に、発話の冒頭でまず要約を示して次に続く内容の予告を行っている。本稿ではそれを要約予告と呼ぶ。

例 10 【要約予告】

YEE: 【前略】哦…日光燈到底是用什麼做成的? 【訳: えー蛍光灯はどのような材料で作られたのでしょうか。】

SHU: **其實日光燈最主要的成分有三個喔, 就是我們大家可以看到的就玻璃, 還有它能夠產生光源的這個螢光粉, 跟..汞, 那**【後略】【訳: 実は蛍光灯の製造は主に三つの材料からなっています。それは、～】

例 11 においては、HAN は WAN に対して、WAN のブログで他人によって書かれたメッセージに何か変化はないかと質問している。様々な話題で質問とそれに対する回答が繰り返されるインタビュー会話の中で、UAN は相手からの情報要求を自分の側で一度整理して繰り返すことにより、どのような話題における情報伝達であるかを分かりやすくしている。このような、情報伝達の前に話題の提示を行う行為を「話題管理」のストラテジーとする。

例 11 【話題管理】

HAN:【～前略～】他們上妳的部落格，或者會留言，【～中略～】過去三年當中那些留言本身有沒有不同的我們叫作改變，或者不同的一個狀態【訳：ブログに訪れてきた人たちによって書かれたメッセージに今までの三年間に何か変化はないでしょうか】

UAN: 嗯…如果說就留言來講的話，就早期那些留言大部分都是一些，蠻多就是一些鼓勵啊！【～後略～】【訳：そうですね、メッセージの内容というのと、やはり励ましの言葉が多いんですよ。】

例 12 における 3YEN の発話の立ち上がり部分では「同調要求」のストラテジーが観察できる。YEN が主張しているのは、タレントたちが芸能界における悪い慣習を一々まねしてはいけないということである。発話の 3YEN の冒頭にある“對不對！”は同調要求の表現に当たる。

例 12 【同調要求】

1YEN:【～前略～】有很多事情是你可以做也可以不做的，就是你幹演藝事業你不一定，也一定要賭嘛【訳：するかしないかはあなた次第です。芸能界だから他人の胡麻すりしながらコネを作っていくとは言っていない。】

2LEE: 嗯，喔不一定要賭＝對【訳：そうか、自分次第か、そう】

3YEN: = 對不對！這個就是說，不是說你幹了演藝事業你一定要會賭到不行，那那其實是不用的那你說幹演藝事業一定要應酬，我一直跟跟很多人講很多人覺得勳【～中略～】人際關係是人家喜不喜歡你你這個人人緣好不好這跟你應不應酬其實是兩回事【訳：そうでしょ↑、つまり、芸能界における悪い慣習を一々まねするものではありません。例えば、合コンに一々参加しなきゃいけない規定はどこにもないし、いい人間関係を維持するには、合コンとは関係なく、あなた自身のキャラは他の人に気に入られるかどうかということです。】

6. 日本語と台湾華語の表現形式の対照分析

日本語と台湾華語の両言語における立ち上がり、伝達内容、そして締め括りという情報陳述の三大要素の中の表現特徴を分析する前に、各表現形式の分類について説明しておく。

日本語会話と台湾華語の表現形式の分類は表7の通りである。

表7 表現形式の分類

日本語	台湾華語
<ul style="list-style-type: none"> ・はい系：え↓、はい、うん、は↓ ・いや系：やっ、や、いや、いえ ・まあ系：ま、まあ ・ます系：「ます」とその肯定式の変化形 ・です系：「です」とその肯定式の変化形 ・けど系：～けど、～けれど、～けれども、～が ・って系：～って、～と、 ・ので系：～ので、～んで ・それで系：それで、で、そこで ・ん系：ん、ふんー 	<ul style="list-style-type: none"> ・“所以”系：所以～、所以這個～、所以說、所以這樣子來講喔～、 ・“嗯”系：嗯～、嗯對～ ・“對”系：對～、對喔是這樣的～、對這個～、對啊～ ・“喔～”系：喔～、哦～、喔這個～ ・“就”系：就～、就是說～、就是～ ・“是”系：是～、是～ 所以～ 不是～

6.1節～6.3節でそれぞれ情報陳述に見られる立ち上がり、伝達内容、そして締め括りの表現形式の日本語と台湾華語における会話の対照分析を行っていく。立ち上がりの分析の焦点は最初に現れる表現の傾向を見出すことで、伝達内容の考察の焦点は最初に現れる節と句の特徴を分析することである。また、締め括りの考察の焦点については、発話の最後に現れる語の分析に絞る。回数を集計については異なり語数を計算している。例えば、「あのね、あのー～」という立ち上がりの場合では、「あのー」の出現1回のみを数える。立ち上がりと伝達内容の表現形式の出現認定については、最初に現れるもの⁵だけ捉える。例えば、「うん、まあ、あの～」の場合、最初に現れる「うん」だけを計算の対象とする。6.1節及び6.2節ではこうした方法で分析する。6.3節における締め括りの集計についても同じく異なり語数で表現形式の計算を行うが、出現の認定については最後に現れる表現を対象とする。例えば、「～けどね」という締め

⁵ 「立ち上がり」は前置き、「伝達内容」は最初の節または句を分析の対象とする。

括りの場合は、「ね」のみ計算の中に入れる⁶。

6.1 立ち上がりの対照分析

今回取り扱った 15 組の日本語会話中のそれぞれの情報陳述の立ち上がりにおける表現特徴の分類を行った後に集計した。

情報陳述の立ち上がりの冒頭に見られる表現形式の出現数の順位付けも行った。各会話における各表現形式の出現数の多さが上位 3 位以内になったものを整理すると、図 2 に示す通りである。

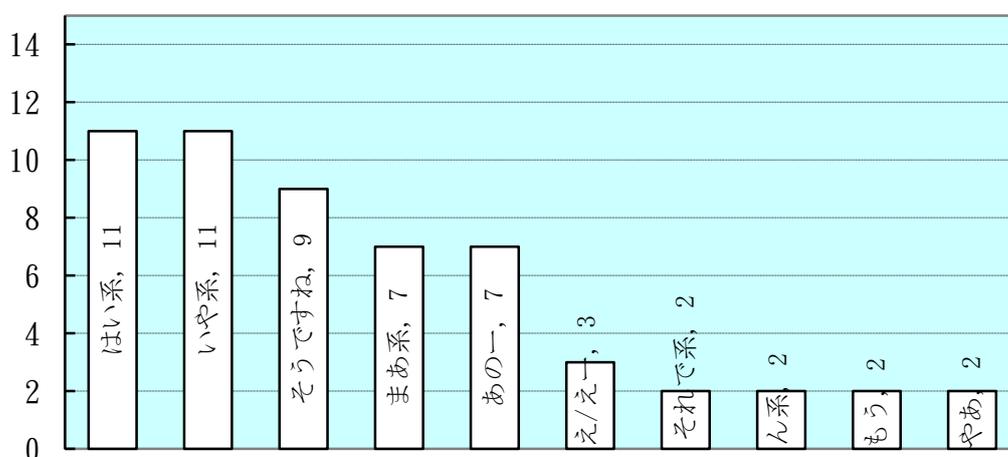


図 2 出現数 3 位内となった回数の比較

(日本語データに見られる情報陳述の立ち上がりの前置き)

15 組のうち、「はい系」の使用数が 3 位以内となったのは 11 組ほどあり、「いや系」の使用数が 3 位以内となったのも 11 組ほどある。つまり、「はい系」、「いや系」、「そうですね」、「まあ系」、「あの一」「え（えー）」、「それで系」、「ん系」、「もう」、「やあ」といった表現は立ち上がりの起動として多く使用されていることが分かった。それ以外に観察された日本語の立ち上がりの表現は「なんか」、「すー」、「そう」、「おー」、「あっ」、「あー」、「あ」、「だから」、「やっぱり」、「そうですか↓」、「とにかく」、「でも」、「ただ」、「だけど」、「っていうことは」、「ね」、「あとは」、「要するに」、「一応」、「っていうか」、

⁶ 但し、「よね」の場合は「よ」と「ね」を分離して考えず、一つの表現として捉える。

「何だ」、「何って言いますか」、「どうでしょう」、「こう」、「ふんー」、「では」等である。

一方、15組の台湾華語会話の中の情報陳述に見られる立ち上がりの表現特徴を同様に整理した結果、図3に示す通りに、15組のうち、「相手用語の重複」の使用数が3位以内となったのは11組ほどあり、「對」、「嗯」の使用数が3位以内となったのは10組ほどあった。つまり、「相手用語の重複」「對～」系、「嗯～」系、「所以～」系、「喔～」系、「欸～」、「我想(我覺得)」、「那個～」、「(有)沒有」、「那～」、「OK」等といった表現が立ち上がりの起動として多く使用されているということである。

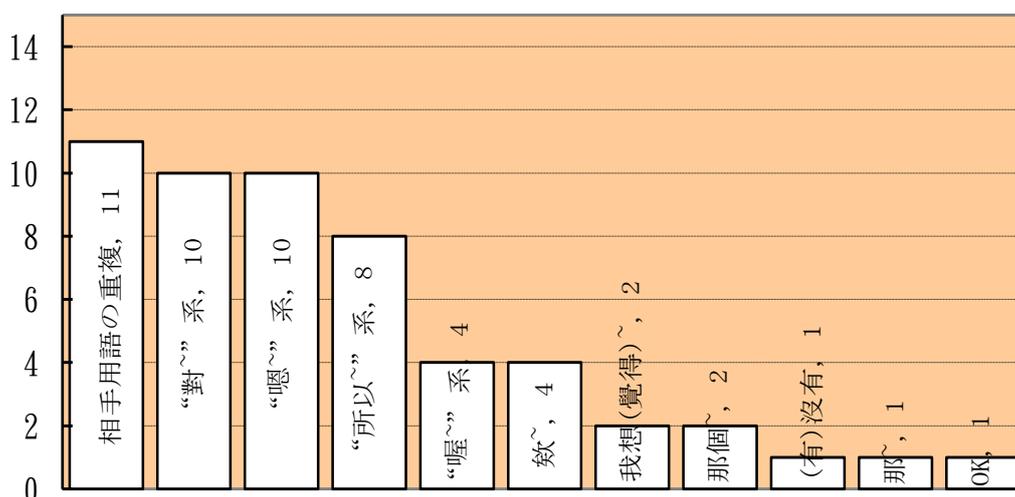


図3 出現数3位内となった回数の比較

(台湾華語データに見られる情報陳述の立ち上がりの前置き)

なお、ほかに観察された台湾華語の立ち上がりの表現は“然後”、“還有”、“因為”、“哇”、“啊”、“但(可)是”、“不過”、“尤其”、“那麼”、“當然”、“是”、“基本上”、“實際上”、“咦”、“哎”、“欸↑”、“雖然”、“實在”等である。

6.2 伝達内容の対照分析

情報陳述の伝達内容はこの言語行動における中核の部分である。

この部分の発話は単独の節または句で構成されたものもあれば、複数の節や句で形成されたものもある。この節では、伝達内容の部分に見られる最初の節や句を観察の焦点とする。

15組の日本語会話の中のそれぞれの情報陳述の伝達内容の最初の発話（節または句）の表現特徴の出現数を整理したところ、次の図4に示す通り、「～ます系」、「～です系」、「～けど系」、「～ね」、「～ので系」、「～よ」、「～し」、「よね」、「動詞常体」の順で多く使用されていることが分かった。集計方法は日本語の「立ち上がり」の冒頭の表現と同じく、使用数が3位以内となった組数を数えた。

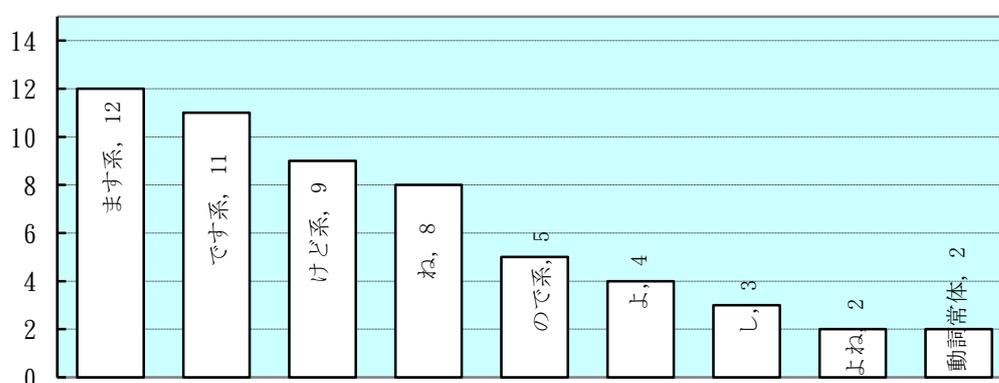


図4 出現数3位以内となった回数の比較
(日本語データに見られる情報陳述の伝達内容)

次の図5は、15組の台湾華語の会話を分析対象として、伝達内容における最初の発話の表現特徴の出現数を集計したものである。“是～”系は全ての組（15組）で上位3位以内となった表現である。“就～”系の出現数が3位以内となったのは11組ある。そのほかに“(没)有”、“(不)要”、“(不)會”、“覺得”といった表現も多く現れる。

“説”、“看”、“想”の出現率が3位以内に入った会話はそれぞれ1組しかないが、ある一つの会話では3位以内に入るほど使用されているということは、多用されそうな表現とも言えよう。ただし、個人もしくは話題によっては多用されることもあり得るので、今後更なる考察が必要である。

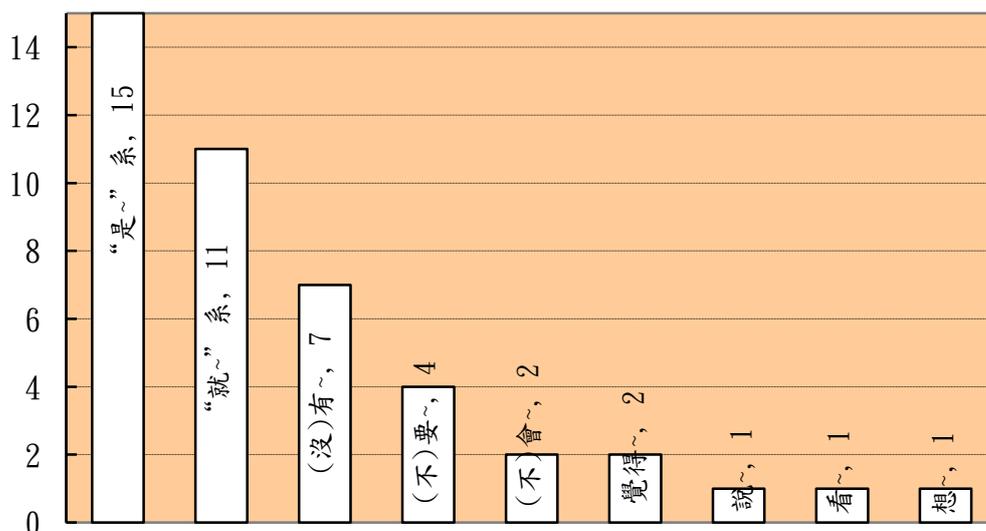


図5 出現数3位内となった回数の比較
(台湾華語データに見られる情報陳述の伝達内容)

6.3 締め括りの対照分析

情報陳述の締め括りの表現特徴について、両言語を比較すると、日本語において「は、ね、けど系、はい系、よね、よ、って系、かな」が多く観察されたのに対して、台湾華語においては、“的”、“了”、“喔”、“啊”、“啦”、“呢”、“齣”、“欸”等が多く観察された。

今回取り扱った15組の日本語会話中に出現したそれぞれの情報陳述の締め括りにおける発話末の表現特徴を整理し、集計した。

情報陳述の締め括りに見られる表現形式の出現数の順位付けも行った。各会話で出現数が3位以内となった表現形式を整理すると、次の図6に示す通りに、15組のうち、「ね」の使用数は全ての組(15組)で3位以内となった。「~けど系」の使用数が3位以内となったのは11組ほどある。「はい系」も多く現れており、9組の会話で出現数が3位以内だった。つまり、「~ね」、「~けど」、「はい」、「うん」、「よね」、「よ」、「って」、「かな」といった表現はよく情報陳述の終結を示すものとして多く使用されていると推測できる。

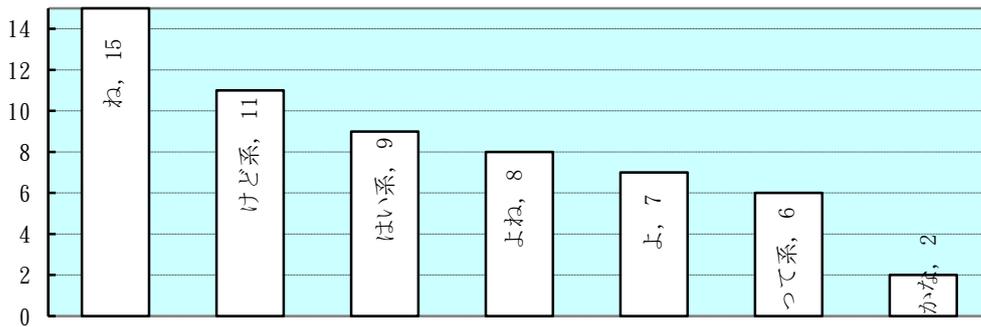


図6 出現数3位内となった回数の比較
(日本語データに見られる情報陳述の締め括り)

上記以外に観察された日本語の締め括りの表現は「～し」、「～とか」、「～でしょう」、「うん↑」、「な(終助詞)」、「かね」、「～っていうか」、「～から↓」等である。

一方、図7は、15組の台湾華語を分析対象として、会話中の情報陳述の締め括りの表現の出現数を集計したものである。“～的”の出現数は全ての会話(15組)で3位以内で、もっとも多く用いられている。そのほか、“了”、“對不對(是不是)”、“啊”、“喔”、“嗯”、“對”、“齣(呵)”、“啦”、“(這樣)這樣子”、“嘛”、“吧”、“欸”の順で多く使用されている。

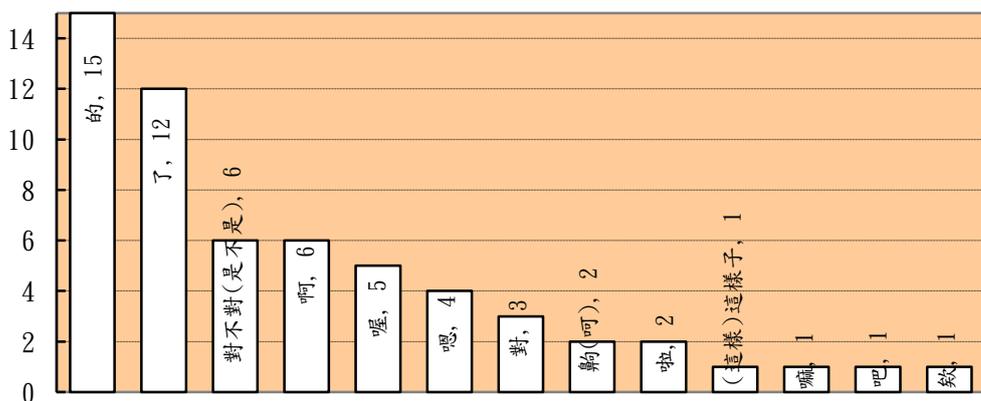


図7 出現数3位内となった回数の比較
(台湾華語データに見られる情報陳述の締め括り)

なお、上記以外に観察された台湾華語の締め括りの表現は“呢”、“耶”、“説”、“咧”、“囉”、“嘿”、“著”等である。

7. 伝達内容の持続

上記の第6節では情報陳述の立ち上がり、伝達内容そして締め括りの三つの部分の表現特徴と出現傾向について、それぞれ日本語と台湾華語においてどのようになっているかを分析した。立ち上がりと締め括りの表現は会話の進行において潤滑油の役割を果たしていると考えられる。一方、「伝達内容」を持続させるためには、会話参加者両方の協力が必要であるが、今回の分析においては、情報陳述を持続させる条件について、両言語とも「聞き手が関与する場合」と「聞き手が関与しない場合」の二つ視点に分けて観察した。

「聞き手が関与する場合」とは、聞き手からの働きかけを受けたことにより情報陳述が継続する場合を指す。黄（2010）はどのような働きかけのパターンがあるかを分析し、了解・聴取済みの表示、言い換え、簡潔なポイント整理、独り言的な確認、簡約なコメント提示、先取り、感情表出、事実補充焦点の9種類を提示したが、今回のデータからも同様のパターンが観察された。

例えば次の例13における2SAMの発話、「緊張するんですか↓」は、KIYが話そうとしている内容の「先取り」と捉えることができ、「聞き手からの働きかけ」の一種と見なしうる。

例13 聞き手が関与する情報陳述【先取り】

1KIY：なんか、特に「入来」とか、PLの後輩、やっぱり（あ）すごく緊張してるみたい、ぼくもやっぱり、吉村さんとしゃべるときにも、もう+

2SAM：+緊張するんですか↓

3KIY：はい、吉村バッティングコーチ、もう、はいと、いいえしか、もう、大丈夫です、はい、いいえ、しか言わないですからね、

次の例14からは、了解表示、簡約なコメント提示、感情表出とい

った相手からの働きかけが観察される。

例 14 聞き手が関与する情報陳述

1SAM：心配のほうは一、

2GOJ：や、心配っていうか、(うん) もう素直に頑張ってもらいたいですね、がんばってほしい、

3SAM：あー、なるほど(はい)でも、自分が抜けているわけですから、穴はもう【了解表示】【簡約なコメント提示】

4GOJ：それは、そうですけれども、それはそうですけど、もう勝ってほしいです、やっぱり、

5SAM：あー、まあ、ね、そうでしょうけれどもね、おれもそういう人間にならなきゃいけない、【了解表示】【感情表出】【簡約なコメント提示】

6GOJ：そんなことはないです

一方、情報陳述を持続させるためには話し手自身の努力も必要である。聞き手からの働きかけではなく話し手自身による情報陳述を持続するための行為、すなわち「聞き手が関与しない情報陳述」を今回のデータで観察すると、言い淀み、接続詞、副詞、接続節の使用、会話標識、同調要求、自問自答、総括、例示の9種に分類することができた

例えば、次の例15のYAKは、「えー」、「まあ」、「ただ」、「あと」、「たとえば」等といった「言い淀み」、「会話標識」、「接続詞」、「接続節」、「副詞」の使用、「～よね」という「同調要求」を通して、伝達を継続することに成功していると考えられる。これらは聞き手が関与せず話し手自身が意図的に伝達を継続しようとするものである。

例 15 聞き手が関与しない情報陳述

YAK：これは、球団のかた、ファンのみなさんには、えー、申し訳ないけど、もうしばらく待っていただきたいと、(そうですね、はい) っていうふうにですね、ただ、あと、気になるのは、まあ、条件面ですよね、(はい) その一、まあ、いま、もう、なにやしかの、えー、年俸もらってらっしゃ(はい) います

けれども、たとえば、新庄選手みたいに、(はい) もう最低年俸でもいいんだと、(はい) 【～後略～】

次の例 16 における「～よね、うん、だから」の部分も典型的な同調要求だと考えられる。

例 16 聞き手が関与しない情報陳述【同調要求】

UDO: それどういうところで感じるんですか↓、その一勝の重みっていうー

HOS⁷: あれだけの一、喜びを、まず甲子園で喜ぶ、甲子園駅で喜ぶ、阪神、で、梅田でまた喜ぶ、家庭で喜ぶ、お店で喜ぶと、もう喜ぶ場所がね、いっぱいあるわけよね、うん、だから、そういうの、まあ、屋台で VTR で見るとね、んー、おろそかにできないなど、いう気持ちにはさせられますね

次の例 17 においては、インタビュアーの YAK はプロ野球チームの監督を務めている応答者側の DOR に対して去年のチームは打撃不振だったが、今年はそれについてどう解決するかについて質問している。DOR が見解を述べる発話内容のうち、自問自答（下線部分）の部分も見られる。つまり、「個々のバッター自身はしっかり頑張れば、他のチームはそう簡単には対応できないだろう」という主張である。

例 17 聞き手が関与しない情報陳述【自問自答】

YAK: えー、あと、打撃陣 (はい) {笑う}これが一番の、まあ、この間の「スポると」のですね (はい) ですね、(はい) 一つの誤算は、この打撃陣であっただろう (うん) という話をしたんですが、

DOR: うん、ですね、(え↓) あの一、個々一人一人いますとね、(うん) あの一、ほかの五球団でそんなにとるかって、そういう一ことはないと思うんですけれども、一番にね、その一、チーム全体考えれば、一年間、クリンアップの固定ができなかったという、打線ですから、線ですから、【～中略～】うん、聞き手が関与しない情報陳述（話し手自身の努力）について、上

⁷ 例 16 に見られる「で」は接続詞にあたり、「んー」は言い淀みにあたる。

記の例 15～例 17 の三つの日本語会話を例として説明したが、次に、台湾華語の例を取り上げ、「総括」、「例示」のストラテジーを述べる。次の例 18 における伝達内容のポイントは「半導体、電子部品産業が盛んに発展したからこそ今の台湾の経済発展に繋がったが、今後の台湾において経済発展で期待できそうな産業はバイオテクノロジーだ。そこから発展できそうな方向は二つある」ということである。下線部分の中国語の訳は「台湾には二つの方向がある。一つは新しい薬剤の開発で、もう一つは～」となる。THZ はこれから主張する内容が 2 項目あることを先に述べ、そのことによって伝達内容が継続している。このように自分の主張の概略を先に述べることで内容が継続することを予告するのも伝達継続のための一つの方略であると考えられる。これを「総括」と呼ぶことにする。

例 18 聞き手が関与しない情報陳述【総括】

THZ: 【～前略～】我們台灣以前靠電子把經濟帶上來，現在通訊方面是很重要的，但是真正將會影響在下一波的產業可能是生技產業，（嗯嗯）這個領域將會很重要，台灣有兩個方向可以走的就是，一個是新藥的开发，新藥的开发，另外一方面是這個醫療器材，因為台灣的電子業發展的很不錯，所以晶片啦或是感應器啦喔，所以這個醫療器材將來也有很好的展望，嗯 【訳：半導体、電子部品産業が盛んに発展したからこそ今の台湾の経済発展に繋がったが、今後の台湾において経済発展で期待できそうな産業はバイオテクノロジーだ。そこから発展できそうな方向は二つある。台湾には二つの方向がある。一つは新しい薬剤の開発で、もう一つは～【後略】～】

例 19 における HON は“像～”という表現を使い、例を提示していく。こうした形でも伝達内容の継続を着実にすることが可能となる。

例 19 聞き手が関与しない情報陳述【例示】

CHA: 那，那你在教學生的時候，有沒有跟他們講說，你們再怎麼不滿意都不可以做這種事，【訳：いくら不満が募ってもそんなことをしちゃいけないと学生たちに注意していると思います

が。】

HON：喔…其實我呵，我很在意這些，像我，有時候有注意到，像我
有到餐廳去輔導，嗯…尤其是在於人的…嗯…那個…脾氣，像
有一個心，心情都很重要，所以在廚房裡面，像有一次，我去
哦…看了一個餐廳，那裡面有一些殺蟲劑，放在廚房，那我就
跟他講【～後略～】【訳：そうですね、実はそのようなことについて非常に気をつけています。例えば厨房現場へ視察に行ったり、そうですね、特に精神面、例えば、気持ちの管理はとても重要である。例えば、ある日のことで、どこかの厨房ではなんと殺虫剤が目立った場所に置かれて、その現象に気づいて、～【後略】～】

8. まとめ

以上情報陳述の行為とその発話の構造をめぐって日本語と台湾華語の対照研究を行った。分析の結果は次の4点にまとめられる。

(1) 情報陳述の表現形式は立ち上がり、伝達内容、締め括りの三つの要素から観察された。この3要素による情報伝達の構造として「立ち上がり＋伝達内容＋締め括り」、「立ち上がり＋伝達内容」、「伝達内容」、「伝達内容＋締め括り」という四つの組み合わせが観察され、日本語と台湾華語ではそれぞれタイプ1（立ち上がり＋伝達内容＋締め括り）とタイプ2（立ち上がり＋伝達内容）が多く観察された。台湾華語よりも日本語は締め括りの表現が出現しやすい言語だということが分かった。(2) 情報陳述の立ち上がりと伝達内容の開始部に見られるストラテジーについては、両言語とも謙遜表示、自問自答、名詞定義、例示予告、要約予告、話題管理、同調要求、時間提示、場所提示、伝聞提示、挨拶、呼びかけ、言い淀みという13種類が見られる。(3) 立ち上がりの最初に現れる表現を「前置き」と看做すと、日本語では、はい系、いや系、そうですね、まあ系、あの一、え/えー、それで系、ん系、もう、やあ等の表現が多いのに対して、台湾華語では、「相手用語の重複」、「對～」系、「嗯～」系、「所

以～”系、“喔～”系、“欸～”、“我想(我覺得～)”、“那個～”、“(有)沒有”、“那～”、“OK”等といった表現が前置きとして多く使用されている。伝達内容の部分の最初の節や句を観察すると、日本語では、「です/ます」とその変化形、「～けど系」、「～ね」、「～ので系」、「～よ」、「～し」、「よね」、「動詞常体」といった順で多いのに対して、台湾華語では、“是～”系、“就～”系、“(没)有”、“(不)要”、“(不)會”、“覺得”、“說”、“看”、“想”の順で多いことが分かった。情報陳述の締め括りの会話標識については日本語では、ね、「けど系」、「はい系」「よね」、「よ」、「って系」、「かな」が多く観察されたのに対して、台湾華語では、“的”、“了”、“對不對(是不是)”、“啊”、“喔”、“嗯”、“對”、“齁(呵)”、“啦”、“(這樣)這樣子”、“嘛”、“吧”、“欸”等が多く観察された。(4) 話者が情報陳述を持続できる条件を観察すると、「聞き手が関与する場合」と「聞き手が関与せず話し手自身が何らかのストラテジーを用いている場合」があった。前者のストラテジーについては了解・聴取済みの表示、言い換え、簡潔なポイント整理、独り言的な確認、簡約なコメント提示、先取り、感情表出、事実補充、焦点である語句の再使用の9種類が見られ、後者のストラテジーについては言い淀み、接続詞、副詞、接続節の使用、会話標識、同調要求、自問自答、総括、例示の9種類が見られた。

日本語と台湾華語における情報陳述の構造や表現上の特徴の類似点と相違点が明らかになったことにより、台湾華語話者の日本語学習者に対する日本語会話指導法に示唆を得ることができた。また、今回データとして用いた自然会話からは多数の表現形式上のコロケーションも観察できた。これらの結果を今後の会話教育の場で活用していく方法を探っていきたい。

参考文献

石川智 (2005) 「文末表現「けど」のポライトネス—OPI から見た母語話者と学習者の使用状況」『言語教育の新展開—牧野成一教授古稀記念論集—』鎌田修・筒井通雄・畑佐由紀子・ナズキアン

- 富美子・岡まゆみ（編） ひつじ書房 pp. 349-364.
- 黄英哲（2010）『会話における情報要求と後続反応の分析—日本語会話と台湾の中国語会話の比較—』致良出版
- 黄英哲（2012）「否定的応答に関する日台の比較」『言語と文化の対話』山崎和夫・松村瑞子（編）花書院出版 pp. 85-103.
- 黄英哲（2014）「会話の情報陳述の構造と表現特徴に関する日台の比較」『2014年第4回日本語教育学会研究集会』日本語教育学会（北海道大学国際本部留学生センター）
- 佐々木泰子（2010）「接触場面と母語場面—体験談の終結部から見たその特徴—」『言語文化と日本語教育』第39号 佐々貴義式先生追悼記念号 pp. 33-40.
- 深川美帆（2007）「接続表現から見た上級日本語学習者の談話の特徴—日本語母語話者と比較して—」『言葉と文化』第8号 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp. 253-268.
- 李麗燕（1995）「日本語母語話者の会話管理に関する一考察—日本語教育の観点から—」『日本語教育』87号 日本語教育学会 pp. 12-24.
- 李麗燕（2000）『日本語母語話者の雑談における「物語」の研究—会話管理の観点から—』くろしお出版
- 林曉茹（2000）。中文言談詞-「那」與「然後」在口語中的功能。國立清華大學語言學研究所碩士論文
- 常雅珍（2005）。說故事的技巧與方法。師友，458，72-75。
- 劉芳君（2003）。國語「這樣（子）」的言談功能與語法化研究。國立臺灣師範大學英語研究所碩士論文
- Labov, W. (1972) *Language in the Inner City*. Philadelphia: University of Pennsylvania press
- Maynard, S. K. (1989) *Japanese Conversation: Self-contextualization through Structure and Interactional Management*. Norwood: Ablex Publishing Corporation.